

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

I～IVはマーク式で、Vのみ記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

I～IIIの読解問題の過去5年の総語数は「2,248→2,112→2,098→2,056→2,223」で大きな変化はない。

出題の特徴や昨年との変更点

大問数・設問数・設問構成ともに、19年連続して同じパターンを踏襲している。大問Vの要約問題は、2017年度以降、あらかじめ与えられた書き出し部分に4～10語を加え、要約文を完成させる形式が続いている。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合	(A)「トーストの考察」 (275 words) (B)「意見の公共的性質」 (253 words)	空所補充問題 品詞や構文だけでなく、文脈にも注意して解いていく必要がある。選択肢には難単語も含まれるが、消去法で対応できるようになっている。	標準
II	読解総合	(A)「貧困を緩和する戦略」(233 words) (B)「ポピュリスト・ナショナリズムの台頭」(271 words) (C)「母が思い描く理想社会」(502 words)	内容一致問題、内容不一致問題、タイトル選択 パラグラフごとの要点を整理しながら読み進めていく力が問われている。(A)と(B)は例年並みの標準レベルであるが、(C)は本文が難解なうえに選択肢に紛らわしいものが含まれているため、正解の判定に苦勞する。19 (タイトル選択) や 24 (要点選択) など文章全体にかかわる設問が特徴的といえる。	やや難
III	読解総合	「ガスライティングという心理操作」 (689 words)	空所への文補充問題 指示語や接続表現のほか、具体例として挙げられているエピソードも空所を埋めるヒントになる。	標準
IV	その他	会話文 「誕生日プレゼント」についての二人の会話	空所補充問題 7つの空所に対して選択肢は13と多いが、空所に入れるべき品詞や前後の文脈に着目することで、検討すべき選択肢は容易に絞れる。	やや易
V	英作文	「理性的であること (に対するの筆者の見解)」 (236 words)	2つのパラグラフからなる文章の一文要約 1パラの内容を踏まえたうえで、2パラで述べられている「筆者の見解」をまとめることになる。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

長文読解問題では、話の展開を理解したうえで個々の設問の解答のカギになる記述を発見することが重要になる。設問の解答を導く根拠を探しながら英文を読む習慣をつけるとよい。空所補充の問題では、文脈に加えて文法・語法・語彙の知識も重要になるため、そのような知識を十分に定着させておく必要がある。一文要約の問題では、英文の要旨を把握する力が試されるので、日頃から論理展開を意識した読み方を心がけ、自分の言葉で (in your own words) 簡潔にまとめる練習を積んでいくのがよいだろう。